

教育課程・指導計画の見直しに向けて

別府大学附属幼稚園 研究主任 原 田 美 穂

1. はじめに

本園の教育課程は、「幼児らしさを大切に自主性を育む」ことを大切に、日々の実践と研究を積み重ね、平成23年に改訂した。幼児のありのままの姿を大切にする個々の尊重、「自ら人やものに関わろうとする主体性」を大切に現在も援助の在り方を探っている。また、予測できない困難な世の中を乗り越えていくための基礎「生きる力」を育むために、子ども達の実態を丁寧に捉え、課題をもって保育を進めている。

そこで改訂から10年を経た今、時代の背景とともに変化していく子どもの姿や経験値、保護者との連携や支援の在り方、地域との連携や小学校との接続など、様々な観点から新・幼稚園教育要領に明示された内容を念頭に、見直しをすることにした。

令和4年度は、現・教育課程から「遊びを通して総合的な指導の在り方」を再度見直すことや新・幼稚園教育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえて編成に重点を置き、改訂に向かって研究を進めている。

2. 研究について

(1) 研究の進め方

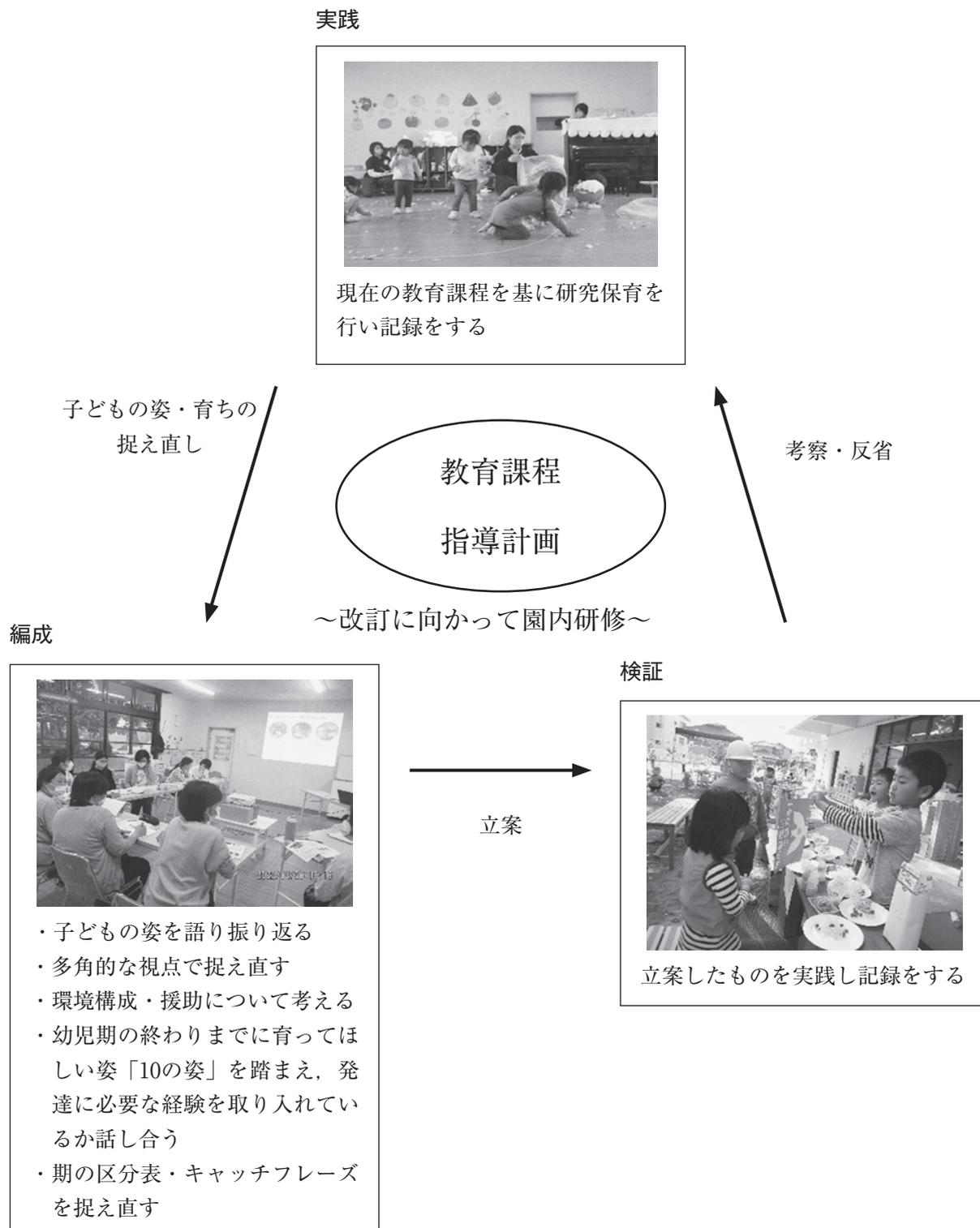
全職員が教育課程・指導計画の大切さや重要性を共通理解し、改訂に向け、別府大学短期大学部初等教育科の菅原航平准教授に『教育課程の見直しについて』『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について』の講義をしていただき、見直しの方向を確認した。そのポイントは以下の5点である。

- ①教育目標・目指す子どもの姿や指導で大切にしたいことを出し合い共通理解する
- ②特に育みたい資質・能力や幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」の捉え方を共通理解する
- ③現在の保育の実践状況を評価し、成果や課題について振り返る
- ④新・幼稚園教育要領の改訂による必要事項を明確化させる
- ⑤新たに満3歳児の指導計画を追加する

(2) 研究方法

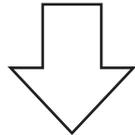
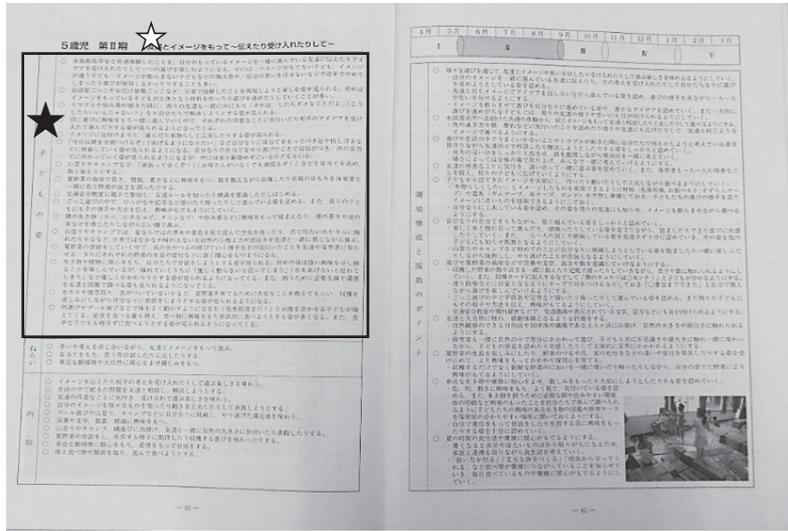
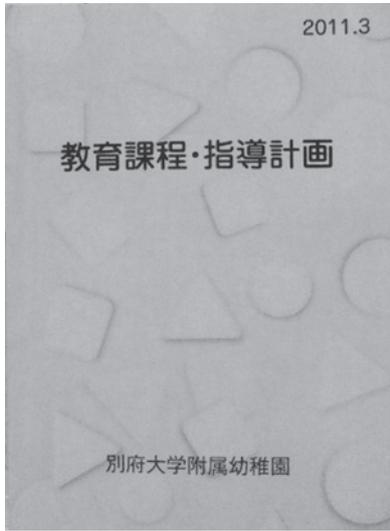
保育の実践状況を評価し、成果や課題について振り返るために園内研修を行う。

1) 改訂に向かったの園内研修



2) 教育課程・指導計画の見直し

現在の教育課程・指導計画



現在の指導計画枠組みについて

期の区分表

学年 第 期	☆~キャッチフレーズ~	I	II	III	IV	V
★ 子どもの姿	子どもの遊びの様子や友達との関わり、生活の様子など、ありのままの姿を捉え、特徴的な姿を書き記している。	環境構成と援助のポイント 環境構成は、場・もの・時間などについて配慮点を記している。 援助のポイントは心的な支えや不安の除去など条件や保育者や幼児相互の支え方などについて記している。				
ねらい	子どもの発達・実態をじっくりと捉え、教育要領の内容にも目を配り設定。					
内容	ねらいを達成するために経験してほしいことを書き記している。					

今回の指導計画の改訂では、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿「10の姿」を意識しながら、現在の教育課程と日々の実践や研修からわかった子どもの姿・ねらい・内容・環境構成と援助のポイント、キャッチフレーズを見直している。

(3) 実践事例

1) 5歳児第Ⅱ期 子どもの姿について

エピソード 6月6日～6月14日 水族館ごっこ ふじ組 長尾有里 あじさい組 原田美穂



水族館見学へ行き、友達と一緒に様々な海の生き物に触れたり見たりした。とても楽しんでいる様子だったので、感じたことや気付いたことを出し合う機会をつくった。①「イルカのジャンプはすごかった！」と言葉で伝えたり体を動かして生き物を表現したりしながら共通のイメージをもったように感じた。子ども達から②「手作り水族館を作りたい。」と言葉が出たこともあり、この共通体験を遊びにつなげてほしいと願いをもっていた担任も水族館ごっこを提案した。子ども達と一緒に考えを出し合う中で、いくつかのコーナーや役が決まっていき選んでいった。その中で、サメ役は、同じコーナーでサメそのものに自分になりきっている姿、段ボールでサメを作る姿など、それぞれの思いで楽しむ姿が見られた。保育者は、「同じイメージをもって水族館ごっこという一つの遊びを楽しんでほしい」と願っていたが、子ども達は、

③サメ役という共通の遊びを楽しむ中で、同じ場で遊ぶ友達のしていることに刺激を受けたものや考えは受け入れるが、心を動かされないものは受け入れないという姿であった。個々が様々な方法で遊びを楽しんでいた。

~~~~~線…実態の変わったところ

このエピソードから、2つのポイントに絞って見直しを行った。

ポイント① 幼児期の終わりまでに育ててほしい「10の姿」として捉えたところに着目する

網掛け①②…言葉による伝え合い(経験したことや考えたことを言葉で伝える)

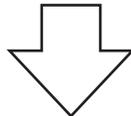
網掛け③…協同性(自分らしさを出して友達と関わる)

ポイント② 指導計画の子どもの姿と実態の捉え直し

#### 現・指導計画の子どもの姿

水族館見学など共通体験したことを、自分のもっているイメージと一緒に遊んでいる友達に伝えたりアイデアを受け入れたりして一つの遊びを楽しむようになる。中には、イメージがもてない子ども、イメージが違う子ども、イメージが膨らまない子どもなどの個人差や、自分の思いを出せないことで途中でやめてしまったり遊びが展開しなかったりすることも多い。

=====…実態と変わると捉えた言葉



#### 検討中の子どもの姿

水族館見学など共通体験したことを、自分のもっているイメージと一緒に遊んでいる友達に伝えたりアイデアを受け入れようとしたりして同じ遊びを楽しむようになる。中には、イメージがもてない子ども、イメージが違う子ども、イメージが膨らまない子どもなどの個人差や、自分の思いを出せないなど途中でやめてしまう姿がある。

5歳児第Ⅱ期では、友達と同じ場やもので遊びそれぞれの表現方法で楽しむ姿が見られる。保育者は、水族館ごっこという一つの遊びで共通の目当てをもち、それぞれのイメージや考えを出し合い実現してほしいと願った。保育者、子ども共に“水族館をつくろう”という思いは同じであるが、“つくる”（作る・創る）ということへのイメージが違った。そのような姿から、それぞれのイメージを言葉で相手に伝える必要性を感じていないと捉えた。しかし、保育者が見通しをもち保育をしていく中で協同性を育むためには、この時期に言葉での伝え合いに重点をおく必要があると感じ、考えを出し合う場や友達の話をついじくりと聞き、思いが伝わるような言葉を考えていく援助をしていった。

この時期は、友達の考えを聞き受け入れる姿への入り口ではないかと考えた。

## 2) 4歳児3年課程第Ⅱ期 キャッチフレーズについて

見直した子どもの姿から、それぞれの期を象徴するふさわしい言葉を探っている。

4歳児3年課程の期の区分表とキャッチフレーズ（現・教育課程）

| 4月                      | 5月 | 6月                     | 7月 | 8月 | 9月 | 10月                        | 11月 | 12月                        | 1月 | 2月                                | 3月 |
|-------------------------|----|------------------------|----|----|----|----------------------------|-----|----------------------------|----|-----------------------------------|----|
| Ⅰ                       |    | Ⅱ                      |    |    |    | Ⅲ                          |     | Ⅳ                          |    | Ⅴ                                 |    |
| 何をしようかな?<br>～落ち着く場を求めて～ |    | こうしてみよう<br>～試したり工夫したり～ |    |    |    | 一緒にしようよ<br>～自分から<br>かかわって～ |     | 友達と一緒に<br>～伝えたり<br>聞いたりして～ |    | 気の合う友達と一緒に<br>～思いや考えを<br>出し合いながら～ |    |

エピソード 5月25日～6月3日 段ボール遊び たんぼぼ組 田吹加奈子 すみれ組 牛尾りりか



ホールに積み上げた400個以上の段ボール箱の山を見た瞬間、「わあ～！」と歓声が上がった。その山にいざ駆け登る。①躊躇なく進んでいくA児、足場を確かめながら一歩ずつ上を目指していくS児、周りの友達の様子を見ながら“自分はどうしようか”を考えているK児など、挑み方は様々であった。頂上目指して進んでいくうちに少しずつ山が崩れたり足や体が段ボールに埋もれたりするようになった。②登っては下りてを繰り返していたG児は、山の中腹から滑り落ちたが「あれ…痛くなーい！」と笑顔で叫んだ。素材に全身で関わっていく中で、段ボールの特性に気付き始めていた。

再び、段ボールを積み上げ山を作り翌日からもすぐに遊べるようにした。あまり自分のしたいことなど思いを言葉に出さないG児や、自分から素材に関わることをためらうS児も登園すると③「今日も段ボールで遊ぼう!」「今日も頂上目指そう!」とすぐにホールへ向かった。④G児は「段ボールって転んでも痛くないんで。」「ここ、入ったら温かいよ!面白い!」と自分が感じたことを次々に言葉に出して表現していた。⑤S児は、慎重派であるが気の合うC児と手をつないで高い所から一緒に飛び降りてみるなど何度も挑戦した。また、

潰れた段ボールを並べて園庭で迷路作りが始まった様子を見てS児も「たんぼぼとすみれを繋げているの。」と⑥段ボールをつなげて自分なりのコースを作り始めた。

このエピソードから、2つのポイントに絞って見直しを行った。

ポイント① 幼児期の終わりまでに育ててほしい姿「10の姿」として捉えたところに着目する

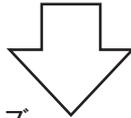
網掛け①③⑤⑥…健康な心と体・自立心（遊びへの意欲）

網掛け②…思考力の芽生え（遊びながら考えたり気付いたり）

網掛け④…言葉による伝え合い（自分が感じたありのままを言葉に出している）

現、教育課程のキャッチフレーズ

こうしてみよう！～試したり工夫したり～



検討中のキャッチフレーズ

こうしてみたい！～試したり工夫したり～

子どもの実態の話し合いを通して、“こうしてみよう！”と試したり工夫したりする試行錯誤を楽しむ姿もあるが、ダイナミックな遊びにも興味をもち素材に存分にに関わりながら“こうしてみたい！”と遊びへの意欲を高めたり自分の思いを言葉に出したりしていると改めて捉え直した。

この意欲を高めるために、サブテーマ（～試したり工夫したり～）のこの表記についても検討している。

### 3. まとめ

これらの事項については、話し合いの一部であり、毎回の研修において様々な課題が見えている。コロナ禍で行動制限が多かった今年度の子ども達ではあるが、3年を経て自分から遊びを見つけたり生活に必要であると思ったことを進んで取り組んだりする意欲的な姿が見られるようになった。今後、就学までに小学校生活や学習していく上で、自分の伝えたいことをきちんと話すことができるように「言葉による伝え合い」に力を注ぎたいと思っている。

このように教育課程・指導計画の見直しを通して、子ども達の見方や考え方、育ちや学びについてより深く考えるようになったことで、具体的な課題が明確になった。

### 4. 次年度に向けて

引き続き、教育課程の改訂を目標にしてこれまでの教育実践や研究の蓄積を活かしながら現在の保育内容について研究を進め、教育活動の充実を図りたいと思う。